

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500030
法人名	株式会社 お茶屋の里
事業所名	グループホーム 下の茶屋
所在地	愛媛県新居浜市西の土居町2-8-23
自己評価作成日	平成28年8月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年8月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人一人の生活リズムを大切に、ご利用者様の視点に寄り添ったケアを心掛けている。四季を通じての行事で季節感を味わって頂いている。年に一度の夕涼み会は家族さんや地域の方々との大切な交流の場になっている。計算ドリルや暑中見舞い・年賀状の差し出しで自分の名前を書き続けられるようにしている。誕生日には外食の機会を設け食欲増進・社会との繋がりを大切にしている。

月に一回は「手作り食の日」と決めており、ピザトースト、カレー等を手作りしている。布団を一日置きに干したり、布団乾燥機を使用したりして気持ちよく眠れるように支援している。避難訓練時には、他事業所から応援者が参加している。職員が利用者役になり、毛布や敷布団を使っての避難方法も訓練した。地域の防災訓練時には、職員と利用者で参加して起震車や煙の体験をしたり非常食について勉強したりした。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 下の茶屋

(ユニット名) コスモス

記入者(管理者)

氏名 筒井 房代

評価完了日 28 年 8 月 15 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)  突発事項が起きた以外は朝礼で唱和している。又、社員登録の試験問題にも導入している。	
			(外部評価)  事業所理念を「笑顔・感謝・交流」とつくり、玄関や廊下に掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)  月一回の施設周囲の清掃を行っている。又、運営推進会議で地域の情報を得て運動会や文化祭などに参加をしている。8月に夕涼み会を予定している。近所の方や家族様たくさんの方に参加して頂く予定である。	
			(外部評価)  職員は、事業所周辺の清掃を月一回行っている。地域の運動会や文化祭、芸能発表会等に出かけて地域の方と交流できるよう取り組んでいる。遊歩道を散歩する際には、出会う方達にあいさつして、時にはお花をもらったりする。法人で行う「夕涼み会」時には、地域の方にも案内して、多くの方の参加があり、利用者が子ども達とふれ合う機会にもなっている。使用するテントや椅子、テーブル等は、公民館のものを借りている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)  運営推進会議で、地域の方々と情報交換をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域の方々や入居者、家族様が参加され2ヶ月に 1度開催している。その中で認知症について意見 交換などを行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>系列3グループホームが合同で会議を行っている。会 議場所は持ち回りになっている。事業所からは、行事 報告と予定、事例報告等、主に報告を行っている。家 族には、事業所便りで会議開催の日時を知らせてい るが、都合により出席は難しいようだ。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>2ヶ月に1度の運営推進会議に参加して頂き、事業所 の実情など伝えながら協力関係は築けている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>介護相談員の訪問が2ヶ月に1回あり、居室で利用者 の話をゆっくり聞いてくれている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>勉強会を開き皆で身体拘束をしないケアの実践に 取り組んでいる。地域密着型サービス協会主催の 研修に出席し知識を高める努力もしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>法人の方針でユニット入り口は鍵をかけている。転倒 の危険がある方には、足元にセンサーを設置してい る。管理者や職員は鍵をかけていることに安心を感じ ており、又、家族も同様に思っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  スタッフ会やユニット会などで、介護の方法を話し合い言葉使いをはじめとし虐待防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  管理者及びリーダーは研修等で学んでいるが全職員のものとはなり得ていない。 今後研修などがあれば参加してもらいたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時には、重要事項などの説明も行い納得して頂き契約している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  月1回、家族様へ利用者の現状を報告したり入り口には意見箱の設置をしている。家族様にも、行事に参加をして頂けるよう連絡をしたり、来所時やケアプラン更新時には意見、要望がないか声掛けをしたりサービス担当者会議にも参加して頂いている。  (外部評価)  家族来訪時には、ユニットリーダーが声かけして、利用者の様子を報告したり、要望や意見を聞き取っている。事業所便りは写真を多く載せている。事業所便りとともに利用者の現状を書いた手紙を同封している。家族から「職員の名前がわからない」という意見があり、玄関に職員の名前と顔写真を貼り出すようにした。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回全体会やユニット会を行いスタッフ全員で話し合い、問題点・改善策を協議している。行事などの担当を決め全員で協力を出来る様、計画している。年に数回、対話する機会を持ち、項目によってはアンケート等も配布している。	
			(外部評価) 月一回、全体会やユニット会を開き、勉強会や利用者のケアの見直し等について話し合っている。欠席者は、会議録を見て捺印する仕組みがある。法人は「えらべる倶楽部」に加入して福利厚生の実現に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 研修への参加の呼びかけを行い、自ら参加したい研修を受けられる様、配慮している。休憩時間も十分取れなかったり、時間外になる時もある為、あらかじめ勤務可能日や残業の有無についての説明や承諾を得ている。	
			(外部評価) 事業所外での研修にはなるべく多くの職員が受講出来る様にし、会で発表したり、共有出来る様努めている。(業務の流れやマニュアルに沿って新しいスタッフが慣れるまでその人に合わせたペースで勤務できる工夫をしている)今年より講師を招き社内での研修も行っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 東予・中予地区での研修、交流の場に積極的に参加している。又、グループホームの相互研修で交流を持ち、サービスや質の向上に努めている。	
			(外部評価) 東予・中予地区での研修、交流の場に積極的に参加している。又、グループホームの相互研修で交流を持ち、サービスや質の向上に努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 東予・中予地区での研修、交流の場に積極的に参加している。又、グループホームの相互研修で交流を持ち、サービスや質の向上に努めている。	
			(外部評価) 東予・中予地区での研修、交流の場に積極的に参加している。又、グループホームの相互研修で交流を持ち、サービスや質の向上に努めている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前面接を実施し、体験入所をして頂いたり、本人や家族からの話を十分聴いて努力している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族様と、以前の生活状況や注意事項・問題点など十分に話し要望を聞き入れ今後の支援に取り入れている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>常に受診を希望される時は出来る限り付き添い送迎等も積極的に支援できるよう努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>その人の出来る部分を生かし、一緒に作業したり洗濯物たたみ等をお願いして手伝ってもらっている。趣味嗜好などに考慮し、その人らしさが発揮出来る様な支援に努めている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族に情報を提示したり、下の茶屋便りを送付して行事への参加呼びかけ等で関係を築いている。面会時に日頃の様子や体調の変化なども報告している。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>何時でも誰でも来てもらえるようにしている。近所から入所されている方もおり、遊歩道の散歩中に、馴染みの方とお話ししたりする事も出来ている。元職場の同僚や同級生の方などの面会時は居室でゆっくりお話が出来る様に支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>地域行事で会った友人が訪ねて来てくれることがあり、ゆっくり話ができるよう居室に案内している。海外に住む家族から電話があれば、話ができるよう仲介している。友人とコーヒーを飲みに出かける際には、職員が家族に連絡や報告を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 全員でテーブルを囲んでボール遊びをしたり歌ったりしている。 又、他のユニットの入居者で話の合う人と交流できる様に支援している。座席に拘らず全員と交流を持てる様にしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院後に他施設へ移るケースが多く関係が切れてしまいがちである。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話に折り込んで聞いたり家族の訪問時に情報を得るようにしている。利用者様同志の会話の中からも希望や願いなど把握し支援に繋げている。	
			(外部評価) 入居時に本人や家族から「できること、できないこと」「わかること、わからないこと」等を聞き取り、アセスメントシートに記入している。日々、利用者との会話の中で「話した内容、行動」等は気づきノートに記入して、利用者の希望や意向等の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族や担当者などから情報を得るようにしている。普段の会話の中から新たな発見がある時もあり、情報として追記している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者様の行動を観察したり、会話の中から性格やなじみの暮らし方を探る様にしている。日々の変化に注意し職員全体への連絡を徹底している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の現状や思い、課題などスタッフ全員が感じている事を拾い出してその中から共通する事を見つけ介護計画作成に反映しアセスメント、モニタリングを書き出してサービス担当者会議で話し合っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時は、一ヶ月間の計画を立て、毎日モニタリングを行いアセスメントして、担当者会議で検討している。その後は、状態変化時や変化がない場合は6ヶ月毎に見直しを行っている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事務所内に各利用者のケアプランや目標を掲示しスタッフ全員の意識を高め共有する事で明確な見方でケアの実践に生かしている。個別のモニタリングシートを作成し毎日、実践出来ているかを合否で記載している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>お誕生会の外出や外食の際に家族を招待したり家族が来られない時はスタッフがボランティアで支援に入ったりする事もある。行事のある時は外部の人的支援や物理的支援網が出来てきている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>夕涼み会等、地域の自治会や老人会等の協力を得て招待しあって交流を図り共に楽しんでいる。近所のお寺の花まつりに参加し、昔ながらの風習を大切にしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援                      受診は、本人及び家族等の希望を大切に                      し、納得が得られたかかりつけ医と事業所                      の関係を築きながら、適切な医療を受けら                      れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に希望の受診先を聞いている。往診の際、本人                      や家族の希望、本人の状態を付き添ってドクターに伝                      える支援をしている。外部の病院を受診される際は家                      族さんの希望でスタッフが同行する事もある。                      車椅子の方などが受診しやすい様、送迎などの支援も                      行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>協力病院の往診が2週間に1回ある。夜間眠れなかつ                      たり行動が落ち着かないような様子が見られる時に                      は、診察時に状態を報告して薬の調整等、医師と相談                      しながら支援を行っている。</p>	
31		<p>看護職との協働                      介護職員は、日常の関わりの中でとらえた                      情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問                      看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が                      適切な受診や看護を受けられるように支援                      している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>看護職は在職していないので、利用者の状態や気づき                      を職員同士で伝え合い共有し、家族とも連携し合い                      月2回の往診時や緊急時に、ドクターと相談したり                      通院受診の支援をしている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働                      利用者が入院した際、安心して治療できる                      ように、また、できるだけ早期に退院でき                      るように、病院関係者との情報交換や相談                      に努めている。または、そうした場合に備                      えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>自己評価</p> <p>入院時は担当ドクター、看護師、ソーシャルワーカー                      との面談を行っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支                      援                      重度化した場合や終末期のあり方につい                      て、早い段階から本人・家族等と話し合い                      を行い、事業所でできることを十分に説明                      しながら方針を共有し、地域の関係者と共                      にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>十分に出来ていない。                      今後は色々検討して行きたいと思っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>これまでに看取り支援の例はない。利用者の状態に変                      化があった場合には、家族や医師と相談しながら支援                      している。管理者は「医師、看護師の協力が得られれ                      ば家族と相談しながら看取り支援もしたい」と話して                      いた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応方法については、マニュアルに沿って対応している。消防署主催の救命処置の研修に参加し皆で共有しながら取り組んでいる。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っている。  (外部評価) 避難訓練時には、他事業所から応援者の参加がある。職員が利用者役になり、毛布や敷布団を使っての避難方法も訓練した。地域の防災訓練時には、職員と利用者で参加して起震車や煙の体験をしたり非常食について勉強をしたりした。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人らしい暮らしが出来ているか、利用者本位の支援が出来ているかを常に考えながら支援している。役割を持って貰いながら何気ない支援の中、尊厳・誇り・プライバシーを保つ言葉かけや居場所、環境作りの見直しをユニット会で定期的におこなっている。  (外部評価) 調査訪問時の昼食後、職員は、「 さん、食器洗いのお手伝いお願いします」と誘っていた。上着のボタンがかかっていない方に、職員はさり気なくボタンを掛けていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 散髪や買い物等、出来る限りの支援を行い、食事やおやつの要望も受け入れる努力をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人一人の、ペースや、その日の体調により起床時間、食事時間等合わせるように心掛けている。声掛けで気持ちの把握に努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身嗜みや整容を本人と共に行っている。外出時はお出かけ用の服を着て貰う等少しでもおしゃれ出来る様に支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) スタッフと利用者が月に一度手作り料理を作る様にしている。野菜の下ごしらえ等、手伝って貰っている。 スタッフ、利用者共に一緒に食事をして、下膳・テーブル拭き・食器洗いは出来る人にはお願いしている。 (外部評価) 副食は、法人の厨房から届いたものを事業所で盛り付けしている。主食は、事業所で炊いている。毎回、お米を研ぎ、仕掛けてくれる方がいる。月に一回は「手作り食の日」と決めており、ピザトースト、カレー等を手作りしている。当日、食器を洗ったり、テーブルを拭いたりしている利用者の様子がみられた。月1回、法人の「食事検討委員会」で味付けや希望等を話し合い改善している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量、水分量共に把握し記録している。咽せる方は、とろみを付け安全に摂取出来る様に食事介助も含め心掛けている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声かけをし、一人一人口腔ケアや義歯洗浄を行っている。 訪問歯科による口腔ケアも実施し嚥下機能の低下防止に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	排泄チェック表により、一人一人のリズムを把握し、声掛け、トイレ誘導を行っている。立位の不安定な方は、2人介助で安全を第一とし便座での排尿・排便を心掛けている。	
			(外部評価)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	薬の服用だけに頼らず、乳製品や海藻ゼリー等を利用しこまめに水分補給を行っている。スタッフと散歩に行ったり歩行運動等している。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	週2～3回程の入浴を実施している。入浴を拒む利用者には、シャワー浴、足湯等を行っている。冷え性の方は朝風呂をお勧めし入浴剤も使用している。	
			(外部評価)		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	一人一人の体調と状況に応じて食後等、休息の支援をしている。居室に戻り休まれたり、ホールでゆったりとソファに座られたり自由な過ごし方の支援をしている。夜間は2時間毎の訪室等で安否確認をし良眠支援を行っている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎日服薬確認を行い薬に変更があった時にはスタッフ間の申し送りや数日間個別の記録を取りこまめな情報の共有をし対応している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の一人一人の身体能力に合わせ洗濯物、お盆拭き等の作業の支援を行っている。レクレーションに心がけ気分転換に出掛けたり、ぬり絵やパズル・計算ドリルなども取り入れている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 出来る限りイベントや誕生日会をやっており、家族さんの協力もあり、折に触れての外出支援を行っている。	
			(外部評価) 気候の良い時期には、散歩や買物に出かけている。又、季節ごとに桜、菖蒲、蓮、コスモス等を楽しみに出かけている。建物の前に移動パン屋が来る時には、パンを買いに出る方もいる。	利用者の生活の場や交流の場を、地域に広げていけるような取り組みを期待したい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理が出来ないので、必需品の購入はご家族の了解を得ている。又おやつなどの買い物の際には、同伴できる利用者と一緒に行動する支援をしている。パンの移動販売も利用している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 届いた手紙など本人にお渡ししている。必要場合は電話をかけた後家族様の電話を取り次いでいる。暑中見舞いや年賀状を書いて戴き家族との繋がりを大切にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			毎朝全体の清掃、整理に努め季節の花を飾ったりしている。歳時記や掲示物の工夫に努め、個人別に室温管理し空気清浄機・加湿器も導入している。	
			(外部評価)	
			廊下には、行事や出かけた際の写真を貼っている。居間の西日が差す側にはすだれを掛けたり、ブラインドを下ろしたりして日よけをしている。クーラーが苦手な方には、扇風機を使ってクーラーの風が直接当たらないように配慮している。職員と一緒にモップ等を使って掃除する方もいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			座席は自由に座ってもらえるよう特に決めておらず、テレビの横にはソファをおいて利用者同士ゆっくり出来る様にしている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			馴染みの物や家族写真など必要に応じて設置している。寝具は自宅より持って来て頂いた私物で対応している。	
			(外部評価)	
			畳ベッドを使用したり、床に畳を敷いている方もある。布団を一日置きに干したり、布団乾燥機を使用したりして気持ちよく眠れるように支援している。各部屋には、塗り絵のカレンダーを掛けている。テレビを持ち込んだり、家族写真を飾っているところもあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			夜間の行動には注意を払いセンサーを利用しながら安全な生活を送れるような介助に努めている。居室には自分で塗り絵を行ったカレンダーを飾っている。 トイレの補助台には、使用目的等を表示している。	